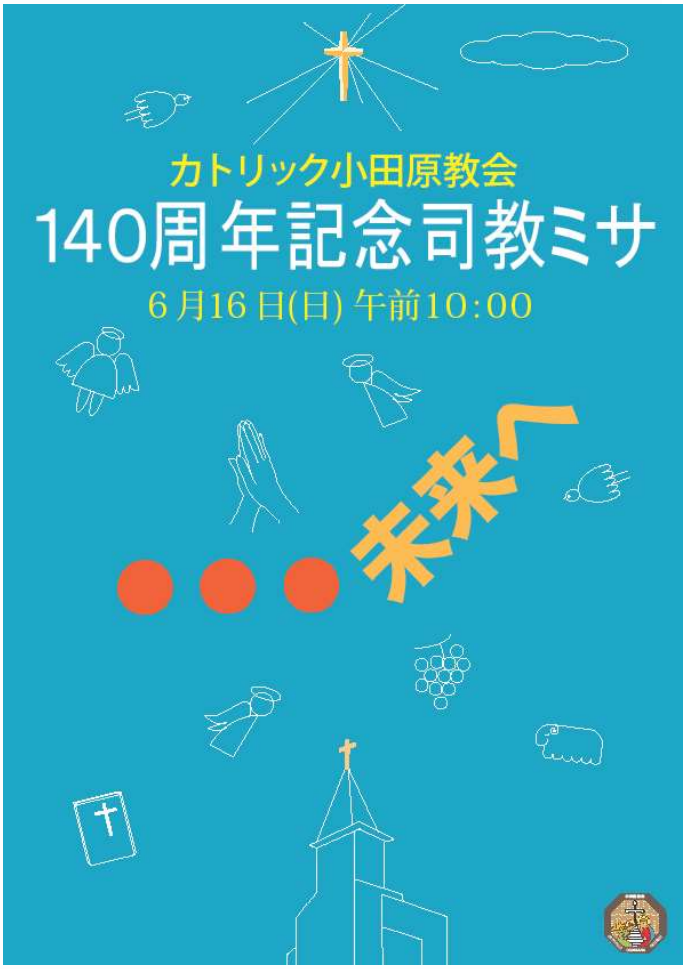

★教会 140 周年記念司教ミサの流れ
６月 16 日（日）

10:00～11:30	140 周年記念司教ミサ
11:35～11:50	集合写真撮影 ２グループに分けて撮影 ・右席 ・左席、２階席、子供部屋
12:00～12:30	司教のお話
12:30～12:45	聖歌隊の歌
12:45～13:30	祝賀会

（お願い）
- 駐車場はご利用できません。晴天時は駐車場が祝賀会会場になります。雨天時も駐車をお控えください。（お困りの方は応相談）
- 聖堂では前から順番にお座りください。７人掛けになります。（通常は６人掛け）

【教会委員長より】

フランス革命後、日本の布教の為に祈る会がフランスで生まれ、命がけで日本の宣教を志した宣教師たち、その活動を支えた多くの信徒の熱意で。７０日の航海の後キリシタン禁教の日本に上陸し、禁教の高札が撤去された直後.まだ鉄道が引かれる以前に、歩く宣教師テストヴィド神父や細渕重教伝道士夫妻の熱意により、カトリック小田原教会が生まれました。今から１４０年まえの事です。それから連綿と多くの先人の努力で絶えることなく今日まで続いて来ました。人口１９万の小田原市の５００名ですが、こんなにか弱い私たちに目を注いでくださった神様に感謝するとともに、私達が地域や世界とつながり。神のみ旨、聖霊の息吹に導かれ次の１５０年に向けて、力強い歩みを続けられますように.

【教会が生んだフランスパン】

キリスト教の解禁後、オズーフ司教がペトロ・レイ神父とともに　山の手の関口町へ赴いたのは　明治 20 年頃でした。ペトロ・レイ神父は、教会経営の孤児院の子どもたちに何か文化的な職業を身に着けさせようと考えた結果、パンの製造を思いつき、子どもたちの中から長尾鉀二を選びフランス領インドシナに送り出し本格的にフランスパンの製法を勉強させました。そして彼の帰国後、教会敷地内に製パン工場を建て、明治 21 年（1888）関口教会所属　聖母仏語学校製パン部として創業しました。日本における本格派フランスパンの誕生と言えます。

その後大正３年（1914）第１次世界大戦がはじまりフランス本国から、孤児院に対する援助金が途絶え、パン製造事業の存続が難しくなった時、小田原出身の信者高世啓三が工場経営の一切を引き継ぎ、関口町に新工場を設立し、関口フランスパンとして発足しました。高世啓三は小田原でガス会社を設立、経営していた人で、製パンについては特別な知識をもっていたわけではありませんが、カトリック信者として教会の窮状を見かねて援助の手を差し伸べたのです。

現在、レイ神父のフランスパンを受け継ぐ創業 130 年の老舗「関口フランスパン」は著名人からも愛され、関口教会（東京カテドラル）のそばで４代目社長高世勇一氏によって経営されています。

［記：山崎偕子］

お帰りに「関口フランスパン」を
各自１個お持ち帰りください